

「老人問題という言い方はおかしい…人間が年をとるのは正常なことですよ」小説『橋のない川』の著者住井すゑは、「老人問題をどうお考えですか」のインタビューに対し、まずそう答えたそうです。

これを「今週のことば」として取り上げた哲学者藤田正勝氏は、「利益や効率だけで物事の、そして人間の価値を測ろうとする現代社会が『古い』を『老人問題』というように『問題』にしてしまっている」…と続けていました。

そんな本人の気丈はさておき、手のかかる存在となり、周囲には「問題」となる…は、自覚した方がベター。感謝の心を持ち、「ありがとう」を言える修業を積むのがベストです。

自分自身には「大問題」です。たかが「山遊び」であっても「古い」との擦り合わせを考えないわけにはいかないからです。落ちていく体力、残り時間、満足度…。いつまで、どこまで？…。



《ホテイラン ハヶ岳 2017. 6. 3》

「擦り合わせ」として、百名山のあたりから、ツアー利用が普通になりました。「自分で行ける山」も、「自分で探す山」にも限界があります。ツアーが出て、そこから日程とコース難度を見て、選択する…これが、快適、そして現実的で、安全。

山へ行くことで健康維持ができ、それがや

りたいから、日常にも健康維持意識が入り、メリハリある生活が出来る…そんな志向の「現在進行形の山仲間」とも出会えます。

中高年登山者層は、日本の山業界にとって、是非繋いでおきたい大お客様のようなようです。

「新日本百名山」「百低山」「島山百選」、さらには「シニア百名山」と、次々、難度を下げた行先が提示されるようになってきました。

地元発ツアーにも、それが反映され、成立するようになっていきます。速くて、辛くて、情けなくて…では、参加を躊躇してしまいますから。コロナ禍を経て、ますます企画力が勝負なのです。

時には姦しすぎる（圧倒的に女性が多いため）こともあるのですが、「生きている時間を、健康で楽しく過ごしたい」人達が申し込んでいます。そこで知り合った、足のレベルが同じ人達との、誘い合っのゆっくり山旅の機会も生まれています。



《ウルップソウと白馬岳 2023. 7. 4》

この夏は、そんな流れで「白馬大池に連泊して白馬岳をピストン」、「鹿島槍を2泊3日」のビッグイベントをやりました。晴天にも花にも恵まれ、これまでにない「山をじっくり味わう」がやれました。時間なら余っている方です。のろのろでもいい。何度目でもいい！相応の設定をし、その程度には動ける体維持を日常にやれば、人生全体を豊かにしていけます（…と、願う）。

さらには、毎月、某月刊機関誌に山原稿を提出の機会がある…も、励みとなることなのです。調べ直しや、写真の吟味にも熱が入ります。これがけっこう楽しい「机上登山」となり、ついついネットサーフィンに填まり込むこともあります。

コロナ禍のせいで、アーカイブでも可になりましたが、この振り返りがまた楽しい…。どうにか老化に順応出来てきたようです。



《鹿島槍ヶ岳 2023. 8. 1》

- 11 月号…夜叉ヶ池山、冠山
- 12 月号…八ヶ岳の中山峠
- 1 月号…マレーシアのキナバル山
- 2 月号…安芸の宮島の弥山
- 3 月号…房総半島の鋸山・富山・伊予ヶ岳
- 4 月号…舟伏山
- 5 月号…対馬の白嶽
- 6 月号…阿蘇くじゅう国立公園 由布岳
- 7 月号…帝釈山・田代山
- 8 月号…幌尻岳・戸蔭別岳
- 9 月号…空木岳・南駒ヶ岳・越百山
- 10 月号…恐山の大尽山

「夜叉ヶ池山、冠山」…まだまだコロナの最中に、マイカーでの移動時間が長いのが、相対的に接触時間を減らすにあたる…の解釈をして、30 年ぶりに登りました。かたや山頂の幽玄な池、かたや三百名山に入る岩峰で、紅葉時期が特にお薦めです。越美山地の両山は、かつて幼児をかかえて出辛い私を、優しい山友が、

楽かつ満足できる山として誘ってくれた山です。その後、韋駄天のごときが禍して半月板を損傷したり、脳梗塞をおこしたりで、彼の方が先にリタイア。ろくにお返しができていないことに胸が痛みます。

「中山峠」…岩崎元郎氏の「地球を遠足」シリーズに参加すると、親しくお便りが届くようになります。この時は、八ヶ岳のしらびそ小屋でのクリスマス会へのお誘いでした。通年営業小屋の多い八ヶ岳では、高校山岳部が雪山合宿に、小学生が雪山遠足に来ていました。営業小屋があつて、晴天率も高ければ「雪を楽しむ」がやれます。かえって、こんなふうでは、雪雷や、除雪、重い雪による閉塞感は、判らない！と思ったことでした。

「キナバル山」…「初めての海外登山」「初めての 4000m 峰」として、お勧めなのが、マレーシア連邦のキナバル山です。貧国とばかり思っていたので、適宜配置されたシェルターや、快適なレストハウスに驚愕。巨人が練り挙げたような、異様な頂上岩峰群や、サウスピークにも、日本にはありえない…を思いました。日常は大節約、旦那に不自由をさせても、海外には出るべし。



《キナバル山のドンキーイヤー 2008. 4. 15》

「弥山」…3 種類は出ている「百低山」本のどれにも載っている、厳島神社の裏山です。大鳥居は 3 年がかりの補修が終わったばかりであり、広島 G7 サミットを控えているというタ

イミグでした。なぜ安芸の宮島が世界遺産になったのか？が、判りました。熟年には熟年になってから楽しめばいい山がある…と、腑に落ちた山です。

「鋸山・富山・伊予ヶ岳」…かつて東京のツアー会社の忘年山行のうちの 하나가、房総の鋸岳と戦跡巡りでした。金沢箱入り女は、東京湾越しに富士山が見える…程度の認識でいて、本土決戦の頃の房総の戦略的意味を知らず、平和ボケを恥じたものです。その分、鋸山が吉田類の「にっぽん百低山」放映第一号になった時は、そうでしょ！と、何故か優越感。この5月に伊豆諸島からの帰りの船便で見た時も感激。また、県美での川瀬巴水展にて、「石積む舟（房州）」があそこだとほくそ笑んでしまいました。早春の三山ツアーとなった今年は、「ラピュタの城」の喩えにアニメ全盛時代を思い、富山用には、南総里見八犬伝を読み直し、角川映画の里見八犬伝も楽しみました。336mでも「房総のマッターホルン」の見栄張りには、笑ってしまいましたが、早春がベストシーズンになる山々でした。思い出同士が繋がりが多層化して、満足が増殖していくのが、熟年です。

「舟伏山」…イワザクラを見に、集中して行った時期があります。掲載に際し確認すると、林道崩壊で行けなくなっていました。最近の集中豪雨と過疎化により、修復されない林道や、廃止されたゴンドラなどが増えました。そのため、脚力を越えてしまい登れなくなった山は、白木峰や鋸崎山など…。こういうのは「山が逃げた」です。

「白嶽」…時間も財布も、昔なら、対馬の山へなんて考えもしませんでした。島とは、まさに、海から突き出た「山」であり、海の眺めも楽しめます。白村江の戦いや元寇、朝鮮出兵や、朝鮮通信使に日露戦争を、現場の遺構で復習も。ウクライナ侵攻が始まって3ヶ月の頃でしたので、プーチンと秀吉の野望が重なってしま

いました。「島山＝山＋観光＋地元グルメ」は、中高年向きです。



《イワザクラ 舟伏山 2013. 4. 22》

「平治岳・大船山・由布岳」…「山と花」をテーマとするからには、6月に取り上げないわけにはいかないのが、九重のミヤマキリシマです。百名山ツアーでは久住山をかすめるのみだったので、法華院温泉泊で、再訪もしました。執筆時にはちょうど西田省三の取材映像が流れており、久弥が九重共和国と称した火山群を、地図を広げて確認。ミヤマキリシマの命名が「らんまん」の牧野富太郎であったことも、ジャストタイミング。そんなふうにおめでたく楽しみました。



《ミヤマキリシマ 平治岳 2014. 6. 8》

「帝釈山・田代山」…オサバグサは、あまり見掛けない植物ですが、帝釈山地には繁茂していて有名です。山頂に広がる湿原のある田代山とのセット縦走が楽しいです。

「幌尻岳・戸蔦別岳」…15 回ほど渡渉の必要な山として、日本百名山中、最難関ともされている山です。日高山脈で福岡大ワングルがヒグマに襲撃されたのは1970年7月のこと…。つまり、私が KUWV に入った年でした。この時勧められたハッカ油を以後は虫よけに使い、その度幌尻岳までを思い出すのは、めでたいことです。

「空木岳・南駒ヶ岳・越百山」…2010年8月に、空木岳で、日本百名山を完登としました。その時は木曾駒からの縦走。2年後には、夫を誘って空木岳から越百山への南下をやりました。木曾殿山荘が、そこでの完登者を祝ってくれるとのことでの選択でしたがちょうど、予約必須に対しての、炎上騒ぎがおきていました。コロナ禍を経て今はどこも完全予約が常識になりました。

「恐山の大尽山」…各県から一つは入れて、中高年向きとした岩崎元郎選定の「新日本百名山」になっている低山。山自体の魅力はなく、あくまで霊場恐山の迫力あつての山でした。でも、「新百名山」入りをしたからツアーが出て、ご縁が…。



《恐山の大尽山 2022. 9. 4》

ようやく、世界の山旅のカタログも復活してきました。高額になり、ツアーリーダー達は、新顔になっていました。私の「老化してしまう！」の悪あがき以上の嵐が、ツアーリーダーという生き方を選んだ人達には吹き荒れたの

でしょう。

懐かしのネパールを開いてみると、かつてシェルパのサーダー達は「上がり」のようにロッジを構え、ヒマラヤン・ドリームを達成していたものですが、コロナ禍後は欧米ビッグ資本が取って代わった気配です。

さて、2023 年は、何より、朝ドラで「らんまん」が放映された年といえます。関連出版が溢れ、フィクションもノンフィクションも楽しめました。高知花紀行に参加し、横倉山にも登ってきました。



《ヤマトグサ 伊吹山 2010. 5. 22》

敬老の日の発表では、「80 歳以上が 10 人に一人」とか。もう、敬うどころではありません。施設に空きはなく、介護人はいない…。山ランクを下げつつ好奇心を繋いで、健康寿命を伸ばしていなければならないのです。

94 歳まで生き、周囲には「困ったちゃん」だったらしい牧野富太郎…。旺盛な好奇心と、フィールドワークは、愛妻壽衛子没後のさらに 29 年を支えました。

そんな手本にあやかり、さらにゆっくりと、「山遊びと花探しを楽しむ」見本くらいは、続けていきたいものです